

廣島大本營の工事

現場の華

工學博士 大熊 乘 彝

もう二三日で桃の節句さいふのに、肌寒い風は鉋屑さいふ鉋屑を隅の方へこ吹寄せて行く。そして時々はくるくる渦を巻きながら一二尺も捲上げてはまた元の通りに散ばして行くのであつた。槌の響き鑿の音はあたりから雜亂に聞えて来て、そのさざれ目には何處からこもなく兵士を送る萬歳の聲が風に送られて聞へて来る。掘立小屋の詰所では急拵への荒木のテーブルを圍んで、銘々の受持場から僅かの休息時間をこゝに費すべく引揚げて來たのであるが、つかれ抜いた監督員達には戦争の話も途切れて、こもすれば無言になりがちであつた。

監督員の一人が突然叫んだ……植田が居ない……この言葉で今迄心付かなかつた人達も植田の來て居ないことを知つたが、さほゞ氣にも留めなかつた。さいふのは植田は非常に熱心な男で、休息時間もを厭はず隅から隅まで見廻つて歩いて、昔取つた杵束で自分で手を下して監督して行くさいふ風で、詰所に顔を見せないここがよくあるので、何人も別に不思議には思はなかつたからだ。始業のベルで職人が働き初めたので監督員は銘々の持場に出掛けたが植田は遂に詰所には來なかつた實は一時間程前から植田の姿が現場の何處にも見出されなかつたのであるが、彼の居る所は誰れも知らなかつた。

× × × ×

戦捷の號外が戸毎に配ばられて行くたびに都下の人氣はいやが上にも昂まつて行くのであつたが、不安の面持はまだまだ行交ふ人の顔に染ふてゐた。大本營は廣島へ移され三月



Dr. Y. Okuma.
Imperial Government Financial Dep't.
Architectual Division Manager.

大藏省營繕管財局工務部長

工學博士 大熊 喜 邦 氏

十八日には臨時議會が愈々そこに開かれることになつた。戦費を議するこの大事の議會、議場となる様な建物は一つもない。

× × × ×

肌を裂く寒風に曝されながら同胞は滿洲の野に山に戦ふてゐるではないか、こゝろに叫びながら根氣の續き限り働きぬいて、假議場の姿ははつきり目の前に浮び出て來た。まだ黄ろい枯草が一面に廣がつてゐた廣場に、鳥の群の様に土工が働き出してから一週間にもなつたらうか。夜も晝もない皆の働き振は恐いもので、もうあすは出來上るさいふ日體は綿の様にへこへこになるまで働いてきた植田の姿が急に見へなくなつたのである。彼は足場から落きて命を殞したのではなからうか、人知れぬ場所に倒れて冷たい骸になつて居るのではなからうか。

植田が居た！

事務所から彼を呼びに來たがきこにも居な

いので同僚が尋ねあぐんで居る時であつたから、一同は聲のする方へ駆付た。そこはさゝやかな風呂場であつた。監督員は宿へ歸る時もなく日夜詰切つて居たので、僅かの際を見て交代に風呂に這入れる様に假の風呂場が造つてあつた。植田はその風呂桶の中で湯に浸つたまゝぐつすり眠つて仕舞つたのである。

× × × ×

年季を入れて叩き上げた大工から監督員に

**本年も
全力を**

日本のコンクリート工事を確實にする爲めに各學校の先輩や官民の各關係者が卒先して盡力しつゝある事は實に感謝に堪へない。

工事畫報も工事研究會の名に於て一昨年から混凝土工事基本知識號、混凝土工事實例號を發行し、又は別冊附録として混凝土の合理的配合と經濟的見積の原理を發行しました、其他最近漸く使用せられんとしつゝある高級セメントに関する知識の附録も發行しました。此等は何れも我國斯道の權威者達が熱心な態度で御盡力下さつたものであります。

昨年の秋からコンクリートカード五萬枚を奉仕的に全国の各工事關係者、土木建築の有ゆる方面に無料頒布しました、之は現場工事諸君に非常なる参考となりつゝあるものです。

簡單なる工具ではありますが、一昨年から工事研

抜き上げられた植田は働けるだけ働いた、身も心も綿のようになるまで働いて風呂に這入るのを忘れる程疲れ切つたのである。熱誠は遂に上司に認められた。大工の小僧植田松四郎は遂に一級の技手にまで進んだ、彼が老年職を辭する時臨時議院建築局技師に榮進したのはこの熱誠の賜であつたが間もなく死歿した。時の上司は妻木博士である。

(工學博士 大熊喜邦)

究會が分讓したスランプテスト用具は、我國のコンクリート工事を合理的に施工する第一歩でありました、あれだけ簡単に出来る事を今迄やらなかつたのが不思議であります、今日ではあの簡単なスランプテスト用具が殆んど津々浦々の現場に迄も行渡りました、それだけコンクリート工事が實際的に扱はれる様になつたのであります。

昨年の秋にイナデーターの簡便なる構造案を募集して、日本の工事に日本人の手で造らるべき最も便利な入選案を得て本號に之を發表するに至つた事は、我國のコンクリート工事を確實にする爲めの一進歩であります。

此の入選案は勿論絶對的の創案と言ふ迄には達しないが、現在の我が工事界から斯く迄の案を得た事は一の成功であります。

(詳細の事は別記参照)



湯田玉水氏の寒雀

(四十頁参照)